

横浜市港北区の権田池で採れた淡水貝

村 岡 健 作

横浜市港北区勝田町の権田池で1976年5月22日と1978年7月13日の2回にわたってミヤコタナゴの生息確認調査とその採捕が行なわれた際に、二枚貝のドブガイ *Anodonta woodiana japonica* CLESSIN とカラスガイ *Cristaria plicata* (LEACH) 及び巻貝のオオタニシ *Cipango-paludina japonica* (V. MARTENS) の生息をも確認することができた。これらの貝類の横浜市内での発見は最近では珍しいことと思われるので、これについて報告するとともに、権田池の貝とミヤコタナゴとの関係についてもふれる。

権田池の概況

権田池は港北区勝田町の雑木林に囲まれた谷間に位置し、周囲約150 m、広さ1500㎡ほどの用水池である。この池に国の天然記念物に指定されている淡水魚のミヤコタナゴ *Rhodeus (Tanakia) tanago* (TANAKA) の生息が確認されたのは1976年5月で、それ以来、県・市教委の手で保護されてきた。しかし、この近くには市立勝田小学校や市営勝田団地などが建ち並び、さらに、この付近一帯は横浜市の港北ニュータウンの建設用地としても計画されている。また、池の周辺にあった水田も既に休耕田と化し雑草に覆われてしまった。このため、池は上流からの湧水や水田からの流入も断たれ、年ごとに汚濁化し、このままではミヤコタナゴが酸欠や渇水等で死滅する恐れも出てきた。そこで、この魚を他の池（横浜市中区の三溪園）へ移す計画が持ち上がり、文化庁の許可を得て1978年7月13日にその作業が実施された。

ミヤコタナゴを採捕するにあたっては池水をポンプで排水しながら行なったので、モツゴ *Pseudorasbora parva* (TEMMINCK et SCHLEGEL), コイ *Cyprinus carpio* LINNE, カダヤシ *Cambusia affinis* (BAIRD et GIRARD) などの魚類も同時に得ることができた。また、広い範囲にわたって池底が露出したことから、二枚貝のドブガイやカラスガイ、巻貝のオオタニシなどの生息を確認するとともに採集することもできた。

MURAOKA, Kensaku: Freshwater shells found in Gonda-ike, Yokohama
神奈川県立博物館

権田池の貝類

ドブガイ *Anodonta woodiana japonica* CLESSIN

本種は斧足綱、古異歯目、イシガイ科に属し、日本各地の池沼に生息することが知られている。権田池にはかなり多くの個体が生息していることが考えられるが、泥底で足場が悪いために詳細な調査を行なうことができなかった。2回の調査で得た標本の測定値を表1に示す。これらの標本はいずれも後背縁の広がりやや弱く、横長型に近い形態を呈し、典型的なドブガイと比較してわずかながら形態を異にしている（図1）。

表1. ドブガイの測定値(mm)

	殻長	殻高	殻幅	採集年月日
1	88.2	54.8	28.3	1976, 5, 22
2	95.3	57.6	33.2	"
3	107.2	63.3	40.6	"
4	111.7	66.0	39.8	"
5	121.7	68.6	45.1	"
6	116.2	70.0	43.6	1978, 7, 13
7	128.0	73.7	65.9	"

カラスガイ *Cristaria plicata* (LEACH)

本種も前種同様イシガイ科に属し、日本各地の池沼の泥底に生息している。本池では幼貝、成貝ともに採れ（図2）、ドブガイ同様に生息個体数はかなり多いものと考えられる。調査個体数は4個体で、このうちの2個体は幼貝であった。他に数個体の成貝が得られたが、魚とともに三溪園へ移したため個体の大きさは不明。調査個体の測定値は表2に示す。

表2. カラスガイの測定値(mm)

	殻長	殻高	殻幅	採集年月日
1	178.0	114.8	56.2	1976, 5, 22
2	225.0	136.0	71.0	1978, 7, 13
3	262.0	145.0	87.0	"
4	267.5	155.0	100.4	"



図1： ドブガイ

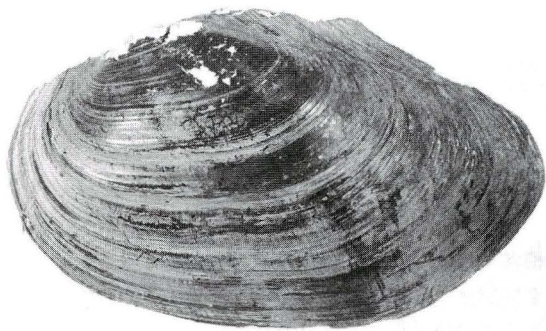


図2： カラスガイ

オオタニシ *Cipangopaludina japonica* (V. MARTENS)

本種は腹足綱、中腹足目、タニシ科に属し、本州から九州にかけての各地の河川や池沼に生息している。本池での生息個体数はおびただしい数に上り、排水によって干上がった池底一面に散在しているのが観察された(図3)。

1976年5月に調査した際、オオタニシの体内には1個体につき、数十個の胎貝を宿していた。また、1978年7月の調査では、母体内に胎貝は見い出されなかったが、多くの成貝とともに未成熟な貝を採集することができた。これらの測定値は表3に示した。

表3．オオタニシの測定値 (mm)

	殻長	殻高	採集年月日
1	60.9	43.5	1976, 5, 22
2	66.3	42.9	"
3	71.6	42.5	"
4	29.5	22.2	1978, 7, 13
5	32.8	25.7	"
6	34.5	25.0	"
7	62.0	41.8	"



図3： 干上がった池底に散在するオオタニシ

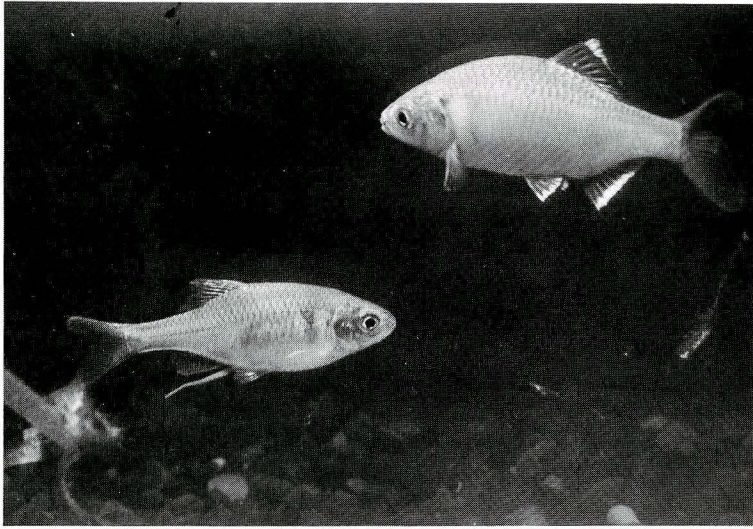


図4： 権田池に生息するミヤコタナゴ（雌雄）

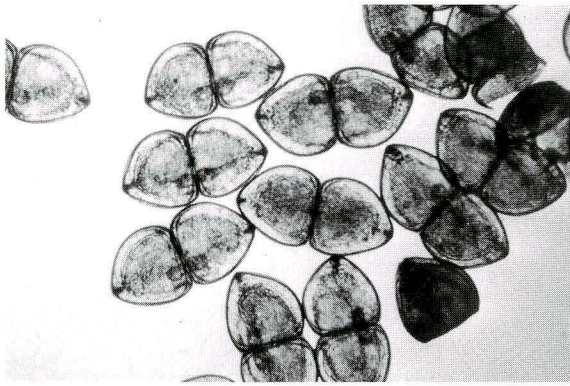


図5： ドブガイのグロキシウム幼生

権田池の貝とミヤコタナゴ

この池には既に述べたようにミヤコタナゴが生息しているが、この魚の産卵貝として良く知られているマツカサガイは生息していない。したがって、ここのミヤコタナゴはドブガイもしくはカラスガイに産卵し、繁殖していることが推察できる。そこで、このことを確認するために1975年5月22日に権田池で得たドブガイ5個体とカラスガイ1個体をミヤコタナゴとともに1ヶ月間室内飼育を試みてみた。しかし、いずれの貝からも稚魚の孵出は認められなかったが、このドブガイから殻縁にフック状の棘を有するグロキシウム幼生が多数孵出するのが観察された。こと飼育観察からは産卵貝の種類を明らかにすることはできなかったが、産卵は5月下旬に入っても行なわれるものと推察した。

なお、神奈川県淡水試験場は1978年7月に採捕したミヤコタナゴを場内に持ち帰り、飼育観察と増殖を試みたところ、

翌年マツカサガイ30個体とドブガイ4個体を用いて多数の稚魚の孵化に成功している。しかし、同一飼育槽に両種の貝を投入したため、このミヤコタナゴがドブガイに産卵したかどうかは明らかではないとのことであった（私信、1980）。

終りに臨み、この調査でご協力いただいた日大附属高校吉田忠氏、神奈川県立博物館小林峯生、中村一恵、山口佳秀、新井一政四氏のかたがたに深く感謝申し上げる。また、貝を同定するにあたってご指導いただいた鳥羽水族館大山桂博士、資料収集にあたってお世話になった横浜市会議員小保健氏、神奈川県淡水試験場村山隆夫、岡彬両氏、並びに県文化財課員のかたがたにお礼申し上げる。

文 献

- 神奈川県 1978 第2回自然環境保全基礎調査，動物分布調査報告書（淡水魚類）. 8 pp.
- 紀平 肇 1977 タナゴと淡水二枚貝について，淡水魚，3：94-99.
- 黒田徳米 1963 巨椋池の貝類. *Venus*, 22(3)：295-297.
- 黒田徳米 1963 日本非海産貝類目録，日本貝類学会，東京.
- 波部忠重・小菅貞男 1968 標準原色図鑑全集3，貝，保育社.
- 宮地伝三郎・川那部浩哉・水野信彦 1976 原色日本淡水魚類図鑑，保育社.
- 中村守純 1963 原色淡水魚類図鑑，北隆館.
- 田中 正 1971 ミヤコタナゴの生態と観察，動物と自然1(3)：25-27.
- 上野益三 1973 川村多実二 日本淡水生物学，図鑑の北隆館，東京.